

第6回苫小牧市地域福祉計画推進委員会 会議録

■日 時

令和8年1月13日（月） 午前10時から午前11時まで

■場 所

苫小牧市役所 9階 大会議室

■協議事項

- (1) 地域福祉に関するアンケート調査について
- (2) 住民ワークショップについて

■会議資料

資料1 アンケート調査分析資料

資料2 住民ワークショップ資料

■出席委員

岡田委員長、池田委員、伊藤（由）委員、工藤委員、郡司委員、杉山委員、伴辺委員
桃井委員、八嶋委員、山崎委員、渡邊委員

■欠席委員

磯委員、伊藤（康）委員、江尾委員、上林委員、川田委員

■事務局

木澤部長、中村次長、上川次長、細野課長、長谷川課長補佐、石橋主査
（株）ぎょうせい1名

■会議概要

<開 会>

(事務局 長谷川課長補佐)

本日は、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。司会を担当いたします、福祉部総合福祉課の長谷川です。

ここで、会議の成立について、御報告いたします。

お手元にお配りしております「苫小牧市地域福祉計画推進委員会設置要綱」第6条第2項において、会議は委員の過半数が出席しなければ、開催できないことが規定されており、本日は、委員16人中11人と、半数以上の委員が出席されておりますので、会議が成立していることを御報告いたします。

それでは、ここからの進行は岡田委員長にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

<議 事>

(岡田委員長)

それでは会議次第により進めさせていただきます。

まず、議事(1)「苫小牧市の地域福祉計画に関するアンケート調査について」事務局より説明をお願いします。

(事務局 石橋主査)

「地域福祉計画に関するアンケート調査について」の御説明をいたします。市民意識調査につきまして、第4期計画策定に向けた市民ニーズを把握するため、市内の18歳以上の市民2,000人を無作為抽出し、令和7年9月1日から26日までの調査期間で実施しました。また、団体調査につきまして、市内の福祉関係団体約100団体に、9月24日から10月17日までの期間で調査しました。

調査結果の内容につきましては、「株ぎょうせい」から説明をお願いします。

(事務局 株ぎょうせい澤村研究員)

ただいまご紹介いただきました、株式会社ぎょうせいの澤村と申します。実施概要から説明させていただきます。

1 市民意識調査の結果概要

1 実施概要

調査期間につきまして、令和7年9月1日から9月26日まで、対象は本市に住民登録がある18歳以上の市民2,000名を無作為抽出しました。

回収数については、731件で、回収率36.8%になります。前回の調査は令和元年度に実施しましたが、回収率は40.0%で若干下がっております。今回の調査は、若い人た

ちの意見をなるべく多く把握するために、「生産年齢人口」と「65歳以上人口」に分け、町ごとに人口配分したことで、前回調査よりも、若い人たちに配った割合が増えていることにより回収率低下に繋がっているのではないかと考えております。

3 ページ「2 実施結果 (1) 回答者の属性」を御覧ください。

若い方の回収状況（18歳以上30歳未満）は、芳しくなく、全体の回収率の低下にも繋がっていると考えております。

2 ページ、圏域別内訳は、市全体で400件以上回収を最低限の目標にしておりますので問題ないと考えております。一番高い回収率は、明野圏域の41.8%、一番低いのが中央圏域の32.2%、回収数は、南圏域の71票、中央圏域の73票で、60票を切ると1人当たりの割合が、1.6~2%ずれるため、圏域別に見ても最低限のラインは確保したと考えております。

集計分析結果の留意事項ですが、回収率や構成比の割合を百分率で表現しております。これは、小数点以下を四捨五入していますので、合計は足しても100%にならない場合があります。

2 実施結果

問2 回答者の属性

次に3 ページを御覧ください。

問2 単数回答：「(1) 回答者の属性」について、年齢別の回収率です。「18歳以上30歳未満」が3.3%、「30歳以上40歳未満」が4.6%と低いですが、Web回答では、「18歳から30歳未満」が16.4%、「40歳以上50歳未満」から下の世代でWeb回答が高くなっています。紙とWebの両方を実施しましたが、比較的若い年齢層での、Web回答は有効であると考えております。

下段グラフ「年齢区分、居住地区別」について、「18歳以上30歳未満」は、東圏域で12.4%です。西圏域としらかば圏域は3%以下となっており、若い世代の回答は少数となっております。

「60歳以上70歳未満」、「70歳以上」について、最も割合が高い南圏域が64.8%となっております。同様に西、しらかば圏域、中央圏域では半数以上を占めており、圏域別で回答する年齢層の割合の差が見られます。

問4 回答者の世帯構成

4 ページになります。

問4 単数回答：上のグラフ、「回答者の世帯構成」について「夫婦のみ」が38.2%と最も割合が高く、次いで「二世帯世帯の親子」は37.3%、「一人暮らし」が17.0%となっております。

下段グラフ、世帯構成を「居住地区別」について、西圏域、山手圏域、南圏域では「夫婦のみ」、しらかば圏域、東圏域の2圏域では「二世帯世帯」、中央圏域では「一人暮らし」が最も高い割合となっております。圏域別の回答者の世帯構成の違いが見られると思います。

問7 地域の関わり

5ページになります。

問7単数回答：(2) 地域への関わりについて、「近所の方とどのようなお付き合いをされていますか」の質問では、「顔を合わせれば挨拶をする」が57.7%と最も割合が高く、次いで「立ち話をする」が20.8%、「顔は知っているが、ほとんど付き合いはない」が10.8%となっております。

令和元年度調査と比較しますと、「お互いの家を行き来する」、「立ち話をする」と言った割合が下がっております。一方で、「顔を合わせれば挨拶をする」が10%上がっております。「顔は知っているがほとんど付き合いがない」も上がっており、近所づきあいとしてもあっさりとした淡白な付き合いの方が増えているのではないかと推察されます。

問8 地域活動への参加状況

問8複数回答：その下段、地域活動への参加状況につきまして、「参加してない」が67.0%と最も割合が増え、次いで「町内会、婦人会など」が19.8%、「趣味や娯楽」が8.8%となっております。令和元年度の調査と比較すると、各活動とも前回の調査から割合は低下しております。一方で、「参加してない」は57.6%から67.0%と回答者の3分の2以上の方が地域活動に参加していないため、割合が高くなっていると感じております。

問12 参加したい地域活動

6ページになります。

問12複数回答：「参加したい地域活動」について「回答者の年齢別」では、「18歳以上30歳未満」は「町内会のお祭りや盆踊りの手伝い」の割合が高く、「30歳以上～40歳未満」から上の年齢層は「ゴミ拾い等の清掃活動」の割合が高くなっております。年齢層によって参加意識の違いがあります。

問13 自身や居住地区での暮らしの感じ方

7ページになります。

問13 (1)～(12) 単数回答：自身や居住地区での暮らしの感じ方ということで(1)から(12)までの設問で「そう思う＋どちらかといえばそう思う」「あまりそう思わない＋全く思わない」ということで、地域についてどのような印象を持っているかといった設問です。12項目を選んでいただき、「そう思う」の割合が高い項目は、(4)「日常生活や地域活動の中で差別や偏見を感じない。」が「そう思う＋どちらかといえばそう思う」で66.9%、(6)「地域の治安はいいと思う。」が74.3%、(10)「子供の遊び場や公園などが充実している。」が57.3%で、この3項目は、「そう思う」が高くなっています。

「あまりそう思わない＋全く思わない」では、(1)「地域や近隣の方との親しい付き合いがある」が64.2%、(2)の「地域活動やボランティアが活発である。」が67.7%、(7)「困ったとき、市内でどんな支援やサービスが受けられるか、ある程度知っている」が65.0% (11)「高齢者が憩う施設や広場など充実している」が62.1%で、この4項目につ

きましては、「あまりそうは思わない」、「全く思わない」が6割を超えていることから、今後の課題として考えられるかなというふうに考えております。

問13 圏域別

8ページになります。

圏域別で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合です。各圏域とも「(4)日常生活や地域活動の中で、差別や偏見は感じない」と「(6)地域の治安は良いと思う」が高い割合となっています。なお、南圏域では「(4)日常生活や地域活動の中で、差別や偏見は感じない」が最も高い割合となっていますが、他の6圏域では「(6)地域の治安は良いと思う」が最も高い割合となっています。各圏域では、「(4)日常生活や地域活動の中で、差別や偏見は感じない」が高くなっておりますが、「(6)の地域の治安は良いと思う」も高く、圏域ごとに少し考え方の違いがあります。

問15 地域福祉に対する考え方

10ページをご覧ください。

問15単数回答：「(3)地域福祉に対する考え方」です。地域での奉仕活動の必要性につきまして、「必要である」が45.4%と最も割合が高くなっており、次いで「どちらかといえば必要である」が36.5%、「わからない」が11.9%となっております。前回の調査と比較しますと、「必要である」、「どちらかといえば必要である」といった割合が高くなっており、「必要ではない」という回答が若干上昇しています。また、「わからない」が、前回調査10.5%から今回調査11.9%となり、「必要性」についてわからないという回答が増えている。必要性を認識いただけるよう、情報発信が必要だと考えております。

問16 地域課題に対する支え合い助け合いの必要性

問16単数回答：「地域課題に対する支え合い助け合いの必要性」も同様ですが、「どちらかといえば必要である」が42.7%、次いで「必要である」が38.6%ということで必要性を感じている方が増えていますが、前回の調査と比較しますと、必要であるが43.8%から38.6%と少し下がっています。そして「わからない」11.0%から13.5%と上昇しており、上のグラフと同様に、地域課題に対しての必要性といったものを情報発信することが必要ではないかなと考えております。

問17 高齢者や障がい者、子どもがいる世帯への支援について

11ページになります。

問17複数回答：高齢者や障がい者、子どもがいる世帯への支援についてどのような支援ができるかですが、「安否を確認する声かけ」が52.5%と最も多く、「災害時の避難支援や声かけ」が37.1%、「ゴミ出しや掃除・除雪などの手伝い」が28.2%となっております。前回の令和元年度の調査と比較すると、「話し相手になる」という回答が、10.8ポイント低下しております。

問20 支援を求める対象者

その下のグラフになります。

問20 単数回答：希望する福祉支援者・協力者につきまして、こういった方に支援していただきたいかという設問ですが、「公的なサービス事業所」が25.5%で最も割合が高く、「近所の人」が24.1%、ボランティアが18.4%となっております。令和元年度の調査と比較すると、「近所の人」が10.9ポイント低下している一方でボランティアが9.8%から18.4%と8ポイント上昇しています。近所の人に助けをいただくよりも、ボランティアへの依頼意識が高くなっていると感じます。

問22 福祉の充実にに向けた行政と地域住民との関係について

12ページになります。

問22 単数回答：福祉の充実にに向けた行政と地域住民との関係について、「行政と住民が協力して取り組む」という回答が44.7%で最も高くなっております、続いて「生活課題について、できる限り行政が必要なサービスを行う」が30.8%、「行政が行うサービスで解決できない課題のみ住民が協力する」が13.1%となっております。令和元年度調査と比較すると、行政に対応をお願いしようという回答が高くなり、「住民と協力して取り組む」や、「できる限り住民が取り組む」といった回答が低くなる傾向が見られます。

問22 年齢別

福祉の充実にに向けた行政と地域との関係について、年齢別で見ますと、「30歳以上40歳未満」の回答者は、「できる限り行政が必要なサービスを行う」という回答が47.6%と半数近くを占めております。その他の年齢層で30%台、「60歳以上」の方で40%台となっております。一方で「行政と住民が協力して取り組む」という回答は、30歳以上40歳未満が31.7%、その他の年齢層については40%ぐらいです。30歳代の方は、「行政が必要なサービスを行う」意識の方に向いているのかなという印象があります。

問25 孤立している人との関わり方について

13ページになります。

問25 複数回答：最近、地域福祉の分野での孤独孤立対策といったものが提起されておりますが、「孤立している人との関わり方について、どのように対応したいと思いますか」について、「声かけや挨拶をする」が41.9%と最も割合が高く、次いで、「わからない」が26.1%で、4人に1人の方がどう関わって良いかわからないという回答をしております。今後、どのような対応、付き合いをしたら良いかということについて、啓発が必要ではないかと感じております。

問25 年齢別

関わり方につきまして、各年齢層で「声かけや挨拶をする」が最も高く、「常に気にかける」が「60歳代以上」で1割を超えています。年齢層の高い方が、「常に気にかける」という必要性を感じております。一方で「特に何もしない」という方も高く、「18歳以上30歳未満」が20.4%、「30歳以上40歳未満」から「60歳以上70歳未満」が10%台半ばで、「特に何もしない」という方も結構おり、人との距離感、付き合い方について今

後、啓発や情報発信も必要かなと感じます。

問 2 6 居住地域の問題や課題について

1 4 ページになります。

問 2 6 複数回答：居住地区の問題や課題について、「バスや鉄道などの公共交通機関が不便である」が 3 4. 6 % と最も割合が高く、次いで、「緊急時の対応体制がわからない」が 2 9. 5 %、「隣近所との交流が少ない」が 2 0. 8 % という結果でした。

問 2 9 緊急時の障がい者や一人暮らし高齢者の支援体制について

1 5 ページになります。

問 2 9 複数回答：緊急時の障がい者や一人暮らし高齢者の支援体制につきまして、「行政、民生委員、町内会、社会福祉協議会など組織の連携を深める」が 3 2. 1 %、「町内会の日頃からの『声かけ運動』を推進する」が 3 1. 5 %、「障がい者や一人暮らしの高齢者がどこにいるか分かるマップを作成する」が 2 9. 1 % でした。令和元年度調査と比較すると、「地域で定期的に避難訓練や勉強会を行う」「わからない」「その他」を除いた各項目で割合が低下しており、支援体制について、令和元年度と比較すると、近年大きな災害がなかったこともあると思うのですが、少し関心が低くなっているかなと感じます。

問 3 1 福祉に関する情報の入手方法

1 6 ページをご覧ください。

問 3 1 複数回答：上の表になります。福祉に関する情報の入手方法を、回答者の年齢別で見ますと、「1 8 歳以上 3 0 歳未満」の方では、「インターネット」、「3 0 歳以上 4 0 歳未満」から「7 0 歳以上」までは「広報とまこまい」ですね。年齢層によって情報収集の方法に違いが見られます。

問 3 2 地域住民の助け合いの活性化に向けた優先施策

1 6 ページ下段のグラフになります。

問 3 2 複数回答：地域住民の助け合いの活性化に向けた優先施策につきまして、「身近な相談窓口の充実」が 4 4. 9 % と最も割合が高く、次いで「サービスを提供する事業所の整備・充実」が 3 7. 9 %、「保健福祉に関する情報提供や案内の充実」が 3 1. 5 % となっています。

他の自治体のアンケートにも携わっておりますが、「相談窓口へ期待する」という意見が他の自治体でもありますので、同じような期待が苫小牧市でも高いのかなと感じています。

問 3 4 成年後見制度の認知度について

1 7 ページをご覧ください

問 3 4 単数回答：(4) 成年後見制度につきまして、認知度を聞いた質問ですが、「制度の名称は知っているが、制度の内容は知らない」が 4 1. 0 % と最も割合が高く、次いで「知らない」が 3 1. 2 %、「制度の名称だけではなく、制度内容も知っている」が 2 5. 3 % となっております。前回の令和元年度調査と比較すると、前回は、「制度の名称だけじゃなく、制度の内容も知っている」の回答が 3 5. 9 % と最も割合が高かったが、この 9 年間で、

「制度を知っている」「内容を知っている」という方が10ポイント以上減っています。一方、「名称」や「内容は知らない」が増加しています。「知らない」も31.2%と増えており、関心も下がっているのではないかと、おそらく、関わっている方が身近にいれば高い関心を持つと思うが、そうではない方は、時間の経過とともに関心は低下しているのではないかなと感じております。

問35 成年後見制度の利用意向について

問35単数回答：制度の利用意向につきまして、「利用したいと思う」という回答が20.2%、「利用したいと思わない」が17.6%、「わからない」が59.5%となっております。前回の調査と比較すると、「利用したいと思う」が32.3から20.2と12.1ポイント低下しています。一方で、「わからない」が18.3ポイント上昇しており、関心の低下がありますが、制度の利用可否を決めかねている方が増えている傾向が見られます。

問37 とまこまい成年後見支援センターの認知度について

18ページになります。

問37単数回答：とまこまい成年後見支援センターについて、「知らない」が76.7%で増加、「名称は知っているが利用したことがない」が19.8%、「知っており利用したことがある」は0.8%となっております。前回の調査と比較すると、「知らない」が、68.0から76.7%と増えております。「名称は知っているが利用したことがない」は減少していますが「知っており利用したことがある」が0.8%で、ほぼ同率で推移しており、なかなか認知度が向上しない印象があります。

問38 市民後見人について

問38単数回答：市民後見人の人数につきましては、「知っている」が6.6%、前回7.4%でほぼ変化はなく、他の項目も「聞いたことはある」「知らない」が前回とほぼ同じ割合で、なかなか浸透しないという印象があります。

問40 社会福祉協議会について

19ページ

問40複数回答：社会福祉協議会について市民に知られている社会福祉協議会の事業につきましては、「社協だよりの発行」が、62.7%で最も割合が高くなっており、次いで「赤い羽根共同募金・歳末たすけあい運動」が49.9%で、半数程度の方がご存知であるということです。3番目は、市民活動センター運営が31.7%で、他の事業も市民に浸透するよう情報発信が必要かなと感じております。

問40 自由記載

20ページになります。

問40自由記述：社会福祉協議会にしてほしい取り組みについて抜粋したものです。いくつかお話をさせていただきたいと思います。まず一つ目が、「活動内容をもっと発信していただきたい」で、アンケートで初めて知った方もいると思います。似たような意見がいくつもありました。「個人情報保護の範囲における適正な利活用と有効活用」で、そこに住んでい

る地域住民のことがわからない、どこまで活用できるか、再検討してほしいという意見がありました。

自由意見で挙げたテーマは、①交通・移動・インフラに関する内容、②高齢者・障がい者への支援、③医療・福祉サービス、④子育て・教育・家計支援、そして⑤生活困難、困りごと・安全、⑥生活保護・財源・制度の公平性、⑦地域活動・つながり・コミュニティ、⑧社会的な課題という内容を多くいただいております。

2 団体調査の結果概要

21ページ目になります

市内で活動している福祉関係者、活動団体事業者に、活動内容と課題を尋ねた設問であります。

問1 現在活動においての課題として感じることにについて

現在活動において課題として感じることにについて、「参加者の高齢化」が50.9%と最も高くなっており「参加者の減少」が38.6%「活動資金の調達、不足」が28.1%で割合が高くなっており、各活動の参加者について「高齢化」、「若い人がなかなか入って来ない」という課題があります。

問2 地域において特に課題になっていることにについて

22ページになります。

地域において課題になっていることにについて、「地域活動を行う人材がいない」、「住民の『孤独・孤立』に関すること」、「災害発生時に避難所までの移動支援に関すること」が回答として多く見られています。

その他の意見として、今回特徴的と思ったのが、「空き家問題」ですね。こちらについては、いくつか意見をいただいております。

問3 活動を継続するうえで行政や社会福祉協議会にお願いしたいことにについて

23ページになります。

活動を継続するうえで行政や社会福祉協議会にお願いしたいことにつきましては、「活動費の助成」が31.6%、次いで「活動に関する地域社会の理解向上のための広報の強化」が29.8%、次いで「活動への市・社協職員の参加・協力」、「特にない」といった意見でした。今後、新たに取り組みたい活動・事業の有無について、「ある」と回答した団体は、22.8%、13団体でした。

問4 今後新たに取り組みたい活動事業について

新たに取り組みたい活動事業については、「こどもの居場所づくり」、「市民対象の啓蒙活動」、「災害時による復興支援の行事」、「海のゴミ拾い」、「シルバーリハビリ体操の普及」という取り組みでした。

問5 地域共生社会を実現するために必要な取り組み

24ページになります

地域共生社会を実現するために必要な取り組みということで、「様々な機関が協働できる体制作り」が57.9%、次いで「市や社協による啓発活動」、「イベント・行事の活用」が共に38.6%という回答でした。

問6 今後どのような団体・機関と連携が必要か

その下のグラフです。今後どのような団体・機関と連携が必要かということで、「社会福祉協議会」が45.6%と最も割合が高く、次いで「市役所」が40.4%、「同じ分野のボランティア団体」が36.8%でした。

問7 地域での福祉活動や福祉施策について

25ページになります

地域での福祉活動や福祉施策についての意見・要望ということで、抜粋させていただいたもので、タイトルのみ紹介します。①ボランティア参加者との減少と高齢化、②交通手段や移動の困難さ、③子どもの意見を聴く場の必要性、④地域の地域活動への協力や連携

26ページ（つづき）

⑤施設利用料や報酬への要望、⑥市職員や行政への不満や要望、⑦活動の担い手不足と後継者問題、⑧福祉や予算の適切な活用の要望、といったご意見をいただいております。

こちらの結果につきましては、計画策定について、課題の整理として活用させていただきます。そして、本日の午後から住民ワークショップを各圏域に地域の現状を説明する際、こちらの資料を活用させていただきます。

私からの説明は以上です。

（岡田委員長）

ただいまの説明で、委員の皆様から御意見・御質問はありませんか。

《質疑応答》

（岡田委員長）

アンケート結果は、市民に公表するのでしょうか。

（事務局 石橋主査）

アンケート結果は、令和8年度計画策定時に資料としてつけさせていただきます。

（池田委員）

18ページの5行目ですけど、間違っていないでしょうか。

（事務局 棚ぎょうせい澤村研究員）

これは文章を間違えております。知らないの割合が上昇しておりまして、利用したことない割合が低下して逆です。訂正します。

(池田委員)

今回のアンケートではないですが、第3期の地域福祉計画を見て、基本理念の中に国籍について記載があります。最近外国人の方をよく街中で見かけますが、これから外国人の方が増えることはあっても減ることはあまりないのではないかという気がします。期待もあり不安もありますが、今回アンケートを見て、地域の治安に対する安心感はすごく高く、外国人との関わりや、地域共生の中でのそういう観点が今回のアンケートに入っていないですが、今後どういう観点で計画に入れていくのか伺いたい。

(事務局 細野課長)

ご質問ありがとうございます。苫小牧市では苫小牧市多文化共生ビジョン等を策定し、外国籍の方との共生等について定めております。今回のアンケートでは質問などは設けてはおりませんが、社協さんと意見交換をする中でも、外国籍の方が増えてきている現状を踏まえ、どのように地域として対応すべきかというような声が、地域住民から多く上がっているという事は伺っております。

その中で、例えば地域のお祭り等にご参加いただくようにして、少しずつ住民の方と一緒に活動できるような場面を増やしていくとか、市内の日本語学校においても、地域の方と協働する場面を作るようにしているとか、そういった話は伺っているところです。

我々としても外国籍の方は地域を構成する一つの要素であるという意識はありますので、今後どのような形で計画に盛り込んでいけるか、しっかりと状況を注視していきたいと考えております。

(岡田委員長)

それでは、この議事(1)については、了承いただくことでよろしいですか。

《異議なしの声》

では続きまして、議事(2)「住民ワークショップについて」事務局より説明をお願いします。

(事務局 石橋主査)

「住民ワークショップについて」御説明をいたします。第4期地域福祉計画の改定に当たり、市民の意見を計画に反映させるため、市内7つの圏域ごとで住民が集まり、意見を出し合っていただきます。令和7年9月に実施した市民アンケート調査結果を基に2回開催し、「第1回：地域の課題」をテーマとし、1月13日(火)から16日、「第2回：課題解消に必要な取組」をテーマとし、2月16日(月)から19日(木)で開催します。ワークショップの内容につきましては、「株ぎょうせい」から説明をお願いします。

(事務局 棚ぎょうせい澤村研究員)

住民ワークショップについて説明させていただきます。全体で90分程度です。お手元の資料2の圏域の特徴を説明しながら、意見交換を行っていただき、第1回目は圏域の課題を参加者から意見を出していただきます。

この資料について簡単に説明させていただきます。調査の概要で、圏域の回収率、市全体の回収を比較しております。2ページから「あなたの世帯に次のような方はいらっしゃいますか。」で、「高齢者」、「障がい者」、「介護を必要とする方」の割合です。3ページでは「近所の方とどのような付き合いをしているか」とこういった傾向を、市全体と圏域で見させていただきます。

5ページは、「あなた自身のお住まいの地域でどのように感じていますか」です。12項目は、感じているの割合を、市全体を1とし、割合が低い場合は、この黒い線から内側（1未満）、割合が高い場合には黒い線の外側（1以上）にプロットされ、地域ごとの意識の多いか少ないか、市全体と圏域の違いが出るように表示しております。

6ページは、「あなたが暮らす地域の困り事や課題に感じていることは」を市全体と圏域を比較しています。7ページ円グラフ、8ページは横棒グラフにしてありますが、一つだけ回答するものについては円グラフで、複数回答につきましては棒グラフで表示しております。15分ぐらいで説明をさせていただく予定です。

11ページですが、「あなたの住んでいる地域はどのような問題や課題があると感じていますか」は、比較をすると見づらくなってしまうので、圏域のみのグラフで表示しています。特徴的なものにつきましては、赤い線で囲みました。

16ページをご覧ください。

圏域でどのような課題があるかを市全体と圏域を比較したときに、この圏域でどのような課題、特徴が見られるかといったものを思いつく限り挙げさせていただきました。例えば西圏域ですが、「近所づきあいの維持継続」、「地域活動や行事への参加者や経験者が少ない」、「子ども高齢者の居場所の不足感」などの特徴について挙げております。この課題について、ワークショップで、意見を出し合ってください。この課題は地域福祉計画の課題整理の際に参考にさせていただこうと思っております。数字で見えてくると、地域で住んでる方が感じることでギャップがあることがあります。「数字ではこうかもしれないけれども、私の感じではこうだよ」といった意見が出るかもしれません。そういったことを話し合い、意見を出していただくことを考えております。第1回でまとめたものを、第2回目には、どうすれば良いか対処方法の意見を出していただく。これで2段階でのワークショップ開催を予定しております。私の説明は以上です。

(岡田委員長)

ただいまの議事について質問、ご意見はありませんか。

資料の西圏域は、澄川町、青雲町、字樽前、ときわ町、字錦岡、のぞみ町、美原町、宮

前町、明德町、もえぎ町、錦西町、北星町という地域のみなさんということになります。

質問がなければ、議事(2)「住民ワークショップについて」御了承いただけますか。

御了承いただいたということで進めます。

他に事務局から何かありますか。

(事務局 石橋主査)

ワークショップの結果につきましては、来年度6月開催予定の推進委員会で御報告します。なお委員報酬につきましては2月中のお振込予定です。

(岡田委員長)

それでは、地域福祉計画推進委員会を終了します。これからまた計画改定に向けて、皆様の御意見をお伺いすることがありますが、今後ともどうぞよろしくお願いします。長時間にわたり御審議いただきありがとうございました。